

平成 30 年度 第 1 回有識者会議でのご意見

(1) プラットフォーム的な協議会組織に求められる役割・機能について

ご意見・指摘事項	回答・対応
<p>(小堀委員) (組織のあり方として) 全国に向けて水平展開をしていく「全国的なプラットフォーム」と、個々にここの地域でこれについて取り組んでいこうとするような地域のいろんなステークホルダーと関わっていく「ローカルなプラットフォーム」の2つがあるように思う。</p>	<p>(対応) 今年度は、水平展開に向けて「全国的なプラットフォーム」の構築に向けて支援を試行する</p>
<p>(富永委員) 研究サイドでこういうデータがあればこんな研究ができるなど、(データの) マッチングできればいいと思う。 特定のテーマに基づくサイエンスという視点で、データを取りに行ったり、データを提供したりの関係性の中で行政が関与や専門家が助言することがよいのでは。</p>	<p>(対応) ネット等で参加する調査の場を設けることについては、今後の課題とする</p>
<p>(小堀委員) ネットの在り方≠プラットフォームの在り方に通ずるかもしれない。市民のビッグデータを構築する、WEB を使って挙げてくれるように仕掛けや写真投稿など。</p>	
<p>(亀山委員) このプラットフォーム的な協議会にて最終形のようなものが示されているが、今の段階では下水道のオモチャが少ないというのが悩みであるように思う。</p>	
<p>(小堀委員) 下水道管理も自分たちで管理していかなければならないし、新しい下水道の在り方、健全な水循環などに市民が関わってもらいたい、もっと手を貸してもらいたいことについて提案をもらって、この場で何をするかについて考えるよりは、自分たちで作っていくことが大切であると思う。</p>	
<p>(小堀委員) いきなり最終形を提示しても、唐突でできないなと感じるかもしれない。今一番大事なのは、目指したい・こういう下水道の形にしたいを見つけていくことである。</p>	<p>(対応) 今年度は、最終ゴールを念頭に置きつつ、検討する</p>
<p>(佐山委員) どこに相談したらいいのか、必ずここに問い合わせればいつも誰かがいて答えてくれる・紹介してくれるようなプラットフォームが望ましい。</p>	<p>(対応) 総合相談窓口の設置については、今後の課題とする</p>
<p>(佐山委員) 人材を育てないと箱物・形だけのものになってしまう。これは一体的な協議に移っていくしかないのかなと思う。</p>	<p>(対応) コーディネーターの育成については、今後の課題とする</p>
<p>(佐山委員) いろんな問題点が多々あって、タネをいろんなところで発表している方もいると思うし、市民団体が抱えているものもあると思うので、そこを上手くすくい上げるような人が必要だと思う。そのためのプラットフォームではないか。</p>	
<p>(小塚委員) 1 人のキーパーソンのやりたいと思うような人がいるとすれば、団体ではなく個人であってもよいと考える。どうやってやればいいのかというところでフォローしていけばいい。こういうことが好きな人でもやり方がわからない、という人が多いので、やり方を提示することが必要。</p>	
<p>(威委員) 情報の発信、広報活動が大変。テーマを下水道にして WEB で公募するのはどうか。</p>	<p>(回答: 天野特別委員) WEB サイトを作ること自体はそれほど難しくはないが、最終ゴールを念頭に置き</p>

	つやらないと一過性の取り組みとなる。咸委員の提案に対して、我々が知らなかった人にいきなりアプローチを掛ける可能性はある話だと思うので、そういう企画を試してみて、それが我々の最終的な活動主体になっていったり地域のコーディネーター役を担うことも意識しながら進めたい。
(小塚委員) HP も好きな人は絶対に見てくれるが興味がない人は見ないので、好きな人に広がるようにすることを、プラットフォーム的なものの中に入れてもらいたい。	(対応) 今年度は、いい川いい川 WS に国交省がエントリーし、全国の川の活動団体へ PR する (資料 3 P10)
(佐山委員) 下水道にとっても関心のあるマニアックな人を 1 人、この中に取り込んで、いろんな所で公募してもらおうようなプレゼン役みたいな人を入れていけば、いい形で回っていくのではないかな。	(対応) マニアの方との連携については、今後の課題とする
(小塚委員) 団体で持続可能性を考えた場合、結局のところ資金調達の話になる。資金調達をするための活動や組織化について助言していくことが重要である。	(対応) モデル地区の取り組みにおいて、助成制度の案内を行う (資料 3 P5)
(小塚委員) 成功体験を求めている人は一杯いると思うので、これから継続していく人たちに伝えていくようにするべき。	(対応) 今年度は、いい川いい川 WS に舞岡中がエントリーし、全国の川の活動団体へ PR する (資料 3 P10)

(2) プラットフォーム的な協議会組織が行う支援の試行としての今年度の取り組み

1) 今年度の取り組み (全般)

ご意見・指摘事項	回答・対応
(咸委員)「表彰制度の検討」との記載があるが今年度にどこまでやるのか、できるのか。少なくとも 1 年はかかるのではないかな。今からスタートして、手配してそれを市民が見て参加するようにするには、今から(企画を)提示する必要があるであろう。	(回答: 天野特別委員) 今の段階ではアイデアレベル、具体的な策については今後考えていく方針で、1 年くらいかければ大体イメージが付くだろうと考えている。その上で、企画、募集する形をとればいざと考える。 (対応) 表彰制度について検討する (資料 3 P12)
(小堀先生) 今年度の下水道展のターゲットにすべきは、九州の、地域の下水道に関わっている方に下水道の市民科学を、いかに自分事として頂けるか、行政の中で集約して考えてもらえるかが重要。	(対応) 下水道展でシンポジウムを開催 (資料 3 P7)
(宮崎先生) (資金面を) しっかりバックアップしてくれる組織やプラットフォームがあってそこに潤沢な資金があって、そういった所の活動援助をしてくれたらいい。そういうのをなるべく早くできないかな。	(対応) 活動資金の助成については、今後の課題とする

2) モデル地区における試行支援

ご意見・指摘事項	回答・対応
(佐山委員) 岡山県の件についても、今年度の方で全体的にフォロー、全部が全部一緒のことではないにしても、フォローをするという立場でやってみてはどうかと思う。	(天野特別委員) 検討する (対応) 岡山理科大学附属高校もモデル地区の 1 つとして支援を実施 (資料 4 P1)
(佐山委員) 助成金の応募などした場合で助成が受かるのは大体年度末で、次年度が採択/不採択になるかと思う。採択になった場合は次年度の活動に資金を充てられることになると思うので、結局は 2 年計画で考える必要がある。採択/不採択の 2 通りの筋書きを考えなければならない。	(対応) 結果等について来年度以降もフォロー

3) 研究テーマ集の作成

ご意見・指摘事項	回答・対応
<p>(亀山委員) コーディネーターが(行政に)持っているきやすい方向で固めておくといい。それと同じことを市民団体側にもいえる。うちの団体に対するメリットは何か、と。上役に説明するための資料がほしいとか。そういった視点も必要だと思う。</p>	<p>(対応) 取り組むメリットも含めてテーマ集を作成(資料5)</p>
<p>(宮崎先生) 資料集は本当にありがたいと思う。必ずしも科学に詳しい先生が顧問になるとは限らないのでそういった方々が困っている現状はある。その助け船になると思う。そこにコーディネーターが付いてくると尚ありがたい。</p>	<p>(対応) 調べ方、まとめ方も含めてテーマ集を作成(資料5)</p>

4) その他

ご意見・指摘事項	回答・対応
<p>(佐山委員) ガイドブックの増刷、配布はあるのか。ただ話をするより、資料を持ち出した方が本当は相手側にも理解してもらいやすいし。</p>	<p>(対応) ガイドブックの増刷印刷</p>
<p>(小堀先生) 行政の方がピンクで市民の方がブルーである。これは非常に間違いやすく、私も前にワークショップした際に間違えてしまいました。どうも逆だと考えてしまう。間違える人が多いので検討して欲しい。</p>	<p>(回答:事務局) 市民のガイドブックにはわかりやすいように、表紙にイラストが入っている。行政のガイドブックにはイラストはない。 (対応案) 行政版の色を変更(濃い青色)</p>